



恋人の日

ブラジルでは日本のバレンタインデーとホワイトデーを一緒にしたと言われている、恋人の日という日があります。今回はこの「恋人の日」についてご紹介いたします。

恋人の日は6月12日で、ブラジルの季節では秋から冬に変わり寒くなり始めたころになります。ポルトガル語で恋人の日は『Dia dos Namorados』といい、直訳すると恋人 (Namorados) の日 (Dia) という意味になります。

日本のバレンタインデーやホワイトデーと違うのは片思いの人に告白したりするイベントではなく、恋人や夫婦が愛を確かめ合い、プレゼント交換をしたり、デートや食事をゆつくり楽しむ日というところです。

恋人の日は6月12日となっているのは、サン・アントニオという聖職者に由来します。

サン・アントニオはもともと高い地位の家庭に生まれましたが、身分を引き継がず聖職者になりました。民衆に対して熱心

に愛について説き、愛情の大切さを伝えていたといえます。話術に長け、ブラジルで人気の聖職者だったようですが、30代という若さで亡くなりました。死後も人気は衰えることなく、愛情の大切さを伝えていたことから愛や縁結びの守護神としても尊敬されています。

サン・アントニオが亡くなったのは6月13日ですが、命日の前日である6月12日を恋人の日として定め、サン・アントニオが説き続けた愛について考える日になったそうです。

ブラジル在住の方に聞いた恋人の日は、既婚、未婚関係なくパートナーとすべきな日を過ごす日。交換するプレゼントは外で身に着けたり使ったりするものが一般的で、指輪などのアクセサリーや服、化粧品やボールペン等、少し高価なプレゼントを選ぶそうです。この時期になるとショッピングモールやプレゼントを買うようなお店で『Dia dos Namorados』という文字をあちこちで見かけます。



▶ ショッピングセンター館内の看板です。『Dia dos Namorados』と書いています。



▶ こちらはお店の写真になります。『Presentes que declaram Amor』と書いてあり、愛を伝えるプレゼントという意味です。また、プレゼントに添えてお花をプレゼントすることも多い



そうです。チョコレートも売っているお店に、普段は売っていないお花が売っていました。◀

また、サン・アントニオにまつわる恋人ができるおまじないが多くあるようで、そのうちの一つを教えてくださいました。皿にピンク色のキャンドルを置き、キャンドルに火をともし皿にハチミツを注ぎます。サン・アントニオに恋人が見つかるようにと祈るおまじないだそうです。

こういったおまじないがいくつもあり、一つ試してだめだったら次、またダメだったら次といろいろ試していくのだそうです。一つのことだめでも落ち込まず、次々試していくのは陽気なブラジル人の気質が表れているなと思いました。

(小林 記)